



藤澤社長

藤澤鋼板は浦安鉄鋼団地への進出第1号企業。68年3月、第1団地の埋立て工事完了とともに起工式を行い、12月に浦安工場が完成した。当時、本所に5つの工場を擁していたが、いずれも手狭で、周辺環境への配慮などから集約を考えていた同社にとって、鉄鋼団地構想はまさに渡りに船だった。

鉄鋼団地は「お客さんにとって、仕入れやすく、便利だけでなく、われ

藤澤鋼板

# 浦安ファイル

## 村山鋼材との協業強固に ホト一貫加工販売体制を構築

<13>

熱延・酸洗鋼板のレベラー、スリッター、シャーリング加工を手掛ける



われ同業者同士にとっても利点がある」と藤澤社長。昨年からスタートした村山鋼材との協業も同じ団地に同じ業態で工場を構えていなければ、実現は難しかっただろう。協業では、村山鋼材の新鋭レベラーを活用することで従来以上に品質が

向上する。自社工場の「鉄腕レベラー」も改良によって品質・生産性が飛躍的に高まった。当面は「協業体制をより強固なものにする」とも、二社でのホトの一貫加工販売体制を構築する(藤澤社長)。加工量は鉄腕レベラーで月間5000

「山田金四郎商店」で奉公し、その後、独立を果たした。二代目の鐵雄社長が会社を受け継いでから、今年で20年。将来の後継へのバトンタッチを見据え、「今まで以上に盤石な会社にした上で引き継ぎたい」と意気込む。村山鋼材との協業もその一環だ。自身も東日本大震災では、工場の基礎が松杭と協力しながら、独立性を保ちつつ、新しい展開を探っていきたい(藤澤社長)としている。

### 会社概要

本社	千葉県浦安市鉄鋼通り2-6-6 ☎047(351)5241 ☎047(353)4892
設立	1950年12月
資本金	4800万円
従業員	50人
代表者	藤澤鐵雄氏
売上高	35億円(12年6月期)

創業で先代社長の滋氏は池袋の石炭商の次男として生まれたが、関東大震災を経験し、「これからは丈夫で燃えない鉄が建築物の主流になる」と予感した父の方針で、旧制中学を中退。本所の

加工設備  
鉄腕レベラー (板厚1.6-6.0mm、板幅600-1600mm、切断長さ914-6100mm)、スリッター (板厚1.6-6.0mm、板幅600-1350mm)、シャーリング6基 (板厚1.6-16mm、※子会社のベストスチール)  
取扱製品=熱延鋼板、酸洗鋼板、縞鋼板など